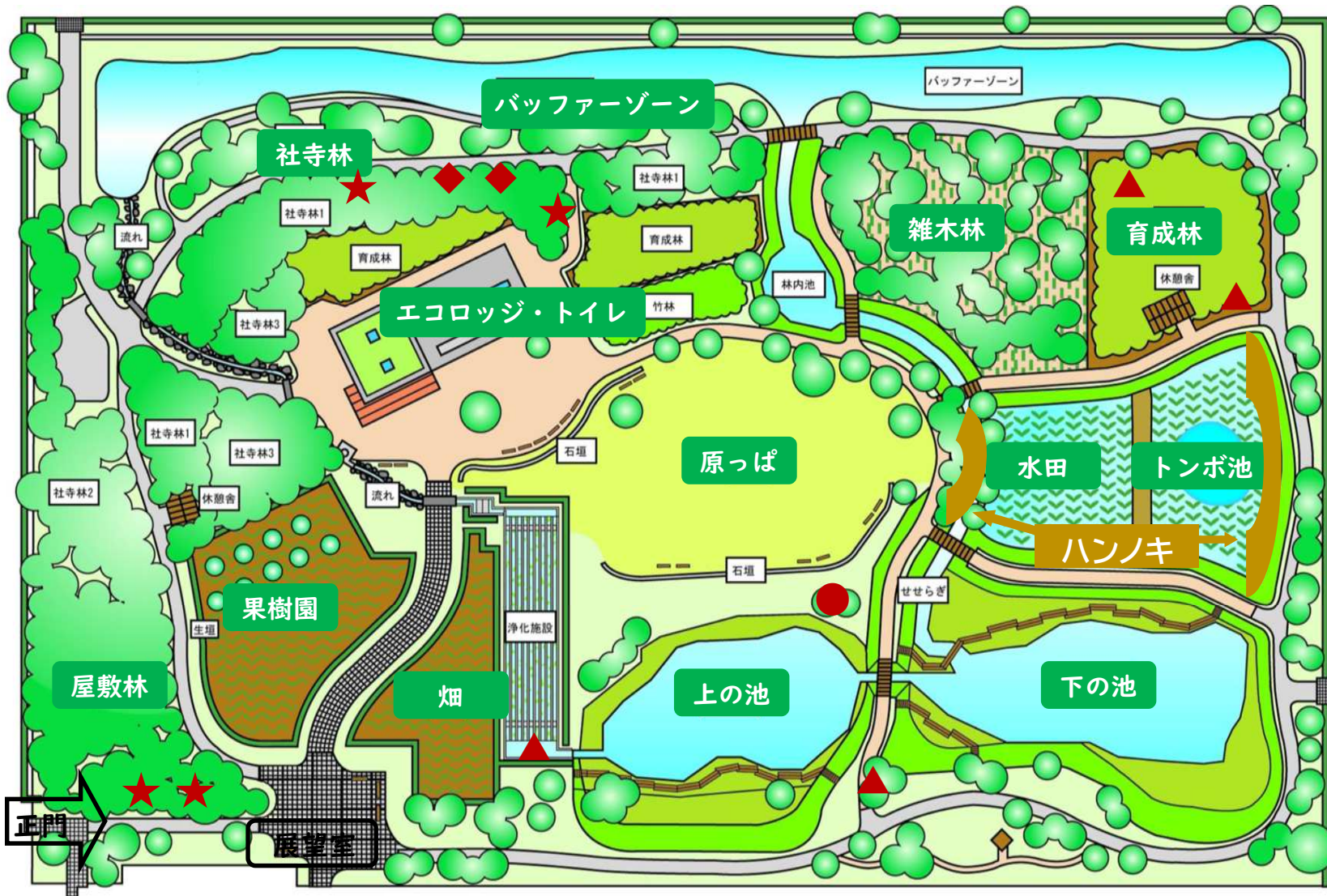


生態園マップ～2024冬編～

きせつ
季節のできごと

- ふゆ しゃじりん なか さ かじゅえん さ はな み
・冬になると、社寺林の中でひっそと咲くヤブツバキと果樹園で咲くビワの花が見られます。
 - とり あか み
・ヒヨドリ、オナガ、ムクドリ、ツグミなどたくさんの鳥が「赤い実」をついばみにやってきます。
- えんないこうじちゅう かしょ き さんぼ たの
※園内工事中の箇所があります。お気をつけてお散歩をお楽しみください。



赤く熟す実



イノバラ

ふゆ あか じゆく み おお き
冬は赤く熟す実が多い季節です。園内には、アオキ(★)、ヤブコウジ(◆)、ノイバラ(▲)、クロガネモチ(●)などがみられます。実が赤いのは、視覚の鋭い鳥に見つけてもらい食べてもらうため。そして鳥が移動先で、フンと共に排泄した種子を芽吹かせるため。赤い実は、鳥にとって餌の少ない冬場の貴重な食料。このように鳥と植物、異なる種別が互いにメリットを得る関係を相利共生といいます。



CESSチャンネル (Youtube)

生態園についても配信

ハンノキ

ハンノキは湿地や湿原などで生育する、高さ10~20mになる落葉高木です。生態園には、ハンノキがたくさん植えられています。これは、埼玉県の蝶である「ミドリシジミ」をよぶためです。ミドリシジミの幼虫は、ハンノキの葉を食べて成長します。ハンノキは、関東地方では田んぼの境を示す目印や、収穫後のイネを干すはざ掛け用として植えられていましたが、水田や沼地が減ったことで、ハンノキも減り、ミドリシジミの数も少なくなっていました。

ハンノキは、寒い冬の間に花を咲かせます。だらりとさがった雄花の花粉が雌花に運ばれ、次の年の秋に小さい松ぼっくりのような実（果穂）ができ、種を落とします。

通称「ゼフィルス（ギリシャ神話の西風の神に由来）」と名付けられた蝶のグループのミドリシジミ。梅雨のころに見られる美しい蝶です。長年の努力が実ったのか、2020年から生態園でも見かけるようになりました。



初夏から夏の頃



秋
ハンノキの雄花



冬



雌雄同株。雌花は雄花のすぐ下に付き、早春に開花



12~1月頃
果穂は木質化して翌年まで残る



1月下旬~2月頃
枝の先端に下垂する雄花



埼玉県の蝶
「ミドリシジミ」

冬の鳥

生態園にはたくさんの鳥がやってきます。鳴き声が聴こえたら、お空や、樹木を見渡してみませんか。またバッファゾーンや下の池のアシ付近を仲良くお散歩しているカルガモの親子に、ちょっと癒されてみませんか。

シロハラ



ツグミの仲間で、お腹の部分が白く、グレーがかかった茶色い鳥です。実は沢山いますが、木の茂みが好きで、なかなか人前にはでてきません。遠くから、双眼鏡で観察するのがおすすめです。

カルガモ



冬になると、一番多く見かけるカモです。雌雄同色。全身褐色で、白っぽい顔をしています。くちばしは黒く、先は黄色。目と頬の部分に黒い線があるのも特徴です。

ツグミ



大きさ24cmほどのやや大きめな冬鳥です。茶色と黒、クリーム色の複雑な模様をしています。両足でびよこびよこんと飛び跳ねて歩き回り、可愛らしいです。